

## 『悲しみは祝福の母』 I サムエル1章2～18節 2018.2.25(主日礼拝説教より)

『神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします…神のみこころに添ったその悲しみが、あなたがたのうちに、どれほどの熱心を起こさせたことでしょう。』

Ⅱコリント7章 10～11 節

ハンナは悲しんでいた。自分は不妊で、もう一人の妻からはいじめられ、夫は無理解で、祈っても答えてくれない神が哀しかった！

**①悲しみは祝福への入口(10～16 節)**…「二人の妻(1:2)」こそ悲しみの元凶！エルカナは、愛する妻ハンナの不妊ゆえに2人目の妻を迎えたが、この罪が罪を生む。人が神以外のものに幸せを求めるなら、それは偶像礼拝(靈的姦淫)。まず神を第一としたい(マタイ 6:33～34)！しかしハンナは、その悲しみを通して素晴らしい祝福に至った！私たちも、どんな苦難も神の祝福の始まりであることを知りたい！Ⅱコリント 7:10～11 にあるように、「御心に添った悲しみ」は、必ず神の慰めに至る！ハンナは『主の御前に、心を注ぎ出して祈った(1:10,12,15)』。嘆きを、夫やペニンナへぶつけず、神に訴え続け、祈ることを止めなかった！不満も愚痴も、怨みも…感情の全てを洗いざらい吐き出した時、御心になかった祈りへ！『主よ。もしあなたが、はしための悩みを顧み、男の子を授けてくださいますなら、その子を主におささげします(1:11)』。神はこの信仰的決断に導きたかった！神は告げた『安心して行きなさい』。彼女の顔は、もはや以前のようにではなかった(1:17～18)。御前に、不健全な感情を全て吐き出せば、悪しきものは取り除かれ、良きものだけが残る！神に愛されている本来のあなたを取り戻す！★不健全なものは、わずかでも心を濁す！だから神は、私たちを火のような試練で精錬し、悔い改めを導き、不純物を吐き出させ、正しい信仰へ至らせる「全てを捧げ、委ねます」！

**②悲しみの教会に喜びを(イザヤ 54:1)**…「不妊の女」とは、実を結ばないイスラエルの民のこと。現代で言えば、罪から救われ、新しい命に誕生する霊の赤ちゃんの産声が聞こえない教会のこと！

★私たちは、ハンナほどに悲しみ、嘆き、御前に祈っているか？滅びゆく人々(救われていない家族、友人、知人…)を痛んで心を注ぎ出して祈っているか？「迷える一匹の羊」が愛され、救われることが父の御心！今年、あなたが関わることのできる「一人」の救いを、涙を流し、心を注ぎ出して、父なる神の前に祈り求めたい！